第３回台東区観光振興推進会議　議事録

■日時
令和 8(2026)年 10 月 22 日（木曜日）午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分

■開催場所
浅草文化観光センター　5 階大会議室

■出席者（14 名）
委員長　　羽生　冬佳（立教大学観光学部観光学科　教授）

委　員　　藤田　一弥
委　員　　西島　裕樹
委　員　　田所　明人
委　員　　長岡　信裕
委　員　　今井　要一
委　員　　島津　一満
委　員　　井桁　凰雄（代理出席：不破　利郎）
委　員　　佐藤　　務
委　員　　根本　　修（途中退席）
委　員　　飯田　　実（代理出席：井本　理恵）
委　員　　髙岡　修一
委　員　　杉光　邦彦
委　員　　寺田　　茂

＜事務局＞　台東区文化産業観光部　観光課
公益財団法人　日本交通公社

■欠席者（2 名）
委　員　　冨士　滋美
委　員　　関井　隆人

■議事
（1）　台東区観光振興ビジョン中間のまとめ（案）について

■配付資料
資料 1　　第 2 回台東区観光振興推進会議議事録
資料 2　　ビジョン策定に係る委員意見への対応状況について
資料 3　　事業者調査の内容とビジョンへの反映
資料 4　　意見聴取会の実施予定とビジョンへの反映
資料 5　　骨子案からの主な変更点
資料 6　　台東区観光振興ビジョン中間のまとめ（案）
資料 6 補足資料　　台東区観光振興ビジョン中間のまとめ（案）概要版

―開会の挨拶・配付資料の確認―

1　委員長挨拶

〇羽生委員長
本日は暖かく、良い日和となりました。先ほど雷門のあたりを歩いてきましたが、大変な人出でした。9 月は天候が悪かった分、秋とはいえ暑い日が続いていますが、10 月は皆様もお忙しくされていることと思います。そのような中、日中のお忙しい時間にお集まりいただきありがとうございます。

事前に事務局から伺っているスケジュールによりますと、大きな骨子については本日この会議でお認めいただかないと、以降のスケジュールが進まないというタイミングです。12 月にはパブリックコメントに移ることになりますので、本日はこれまでご議論いただいた内容がきちんと反映されているか、不足している部分がないかをご確認いただき、積極的にご発言いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2　報告事項（1）　第 2 回推進会議の振り返り

〇事務局
―資料 1 及び資料 2 に基づき、第 2 回推進会議における議事の概要と、これまでの対応状況について説明―

〇委員長
資料 2 では、これまでの会議でいただいたご意見が 50 件に整理されています。ここまで集約するのは大変だったかと思います。これらは一部であっても概ね反映しているとのことですが、対応内容で気になる点や、具体的な対応など確認したい点がありましたら、ご意見をいただければと思います。

（特に質疑なし）

3　報告事項（2）　事業者調査及び意見聴取会の実施とビジョンへの反映について

〇事務局
―資料 3 及び資料 4 に基づき、事業者調査の結果、意見聴取会の実施予定、及びそれらのビジョンへの反映について説明―

〇委員長
意見聴取会の日時・場所は未定とのことですが、おおよそいつ頃の開催を見込んでいますか。

〇事務局
11 月に開催し、中間のまとめに間に合うよう進める予定です。

〇委員長
事業者調査は 410 件の回答で、回答率は 14%と 1 割強ですが、件数の絶対数で見ればよく集まった良い調査だったと思います。結果を見ると、困っていることや、意識はしているが実施できていないことがよく表れています。それらを手助けできるような内容がこのビジョンに書かれると良いと思います。

（特に質疑なし）

4　議題（1）台東区観光振興ビジョン中間のまとめ（案）について

〇事務局
―資料 5 及び資料 6 に基づき、骨子案からの主な変更点、及び中間のまとめ（案）について説明―

〇委員長
情報量の多い説明でしたが、皆様からご意見、ご質問をお願いいたします。

〇委員
4点、質問と要望があります。

1点目は、6つの基本方針の位置づけについてです。台東区は言わずと知れた文化資源の多い区です。その文化資源を観光客が見て、敬意を持って台東区にお越しいただく。区民はそれを見て、自分のまちに誇りを持つ。以前、委員から、シビックプライドについて観光から自覚が生まれていくというご指摘もいただいています。それを踏まえると、現在は基本方針の1と3が重点に置かれていますが、台東区の観光ビジョンですので、例えば基本方針5の文化についても重点的に取り組んではいかがでしょうか。

2点目は指標についてです。資料2でこれまでにいただいた委員のご意見を見ると、前回、4年後の台東区の発展をどう測るかというご意見があり、その結果、資料5の一番下では、最終目標（KGI）や中間的な指標（KPI）について、「目標指標とせず継続して把握していきます」として、ぼやかしています。これはいかがなものかと感じています。KGIやKPIをしっかり掲げていくことが大事だと思います。第5章は作成中とありますが、順序立てて目標を体系づけて整理し、それに向けて私たちが努力していくという形にすべきだと思っています。民間企業では、KGIとして売上高を、KPIとして顧客数などを設定していることに鑑みると、例えば年間消費額をKGI、年間観光客数をKPIとするように、把握するだけでなく、しっかり整理していくことが大事だと思います。

3点目は、台東区に限らず全国的、世界的に大事になってくることです。資料2の10番目では、税の効果を区民に見える形にするという点が挙げられていますが、宿泊税をめぐる動きは世界的にかなり進んでいます。東京都は来年度（2027年度）から、宿泊税を定額から定率に変えて徴収します。世界的にはバルセロナなどの都市でもしっかり徴収しています。こうした世界と日本のトレンドを、この計画の中で説明しておくべきと思われます。第2章では区民や事業者などの動向を示していますが、税についての動向も見えるようにし、区民や事業者に説明できる記載が必要だと思います。

4点目は視点が変わり、アイデアベースの提案です。台東区には観光資源にしたい様々なメニューがあります。区内には都市型の醸造所が増えており、御徒町のアーバンワイナリーや、浅草の日本酒、ビール、ジンなどいろいろあります。区内は狭いエリアですので、歩いて回れる都市型の酒蔵巡りのような観光のメニューを作り上げ、より一層観光客を惹きつけていくことを提案したいと思います。先日、区役所10階で観光と産業の事業者の皆さんに集まっていただく観光×産業EXPOを実施しましたが、こうした醸造所の方々も出展されていました。観光資源としてより発展させていきたいという思いでの、一つの提案として受け止めていただければと思います。

〇委員長
4点目以外の3点はかなり重いご指摘かと思います。事務局から回答はありますか。

〇事務局
1点目の文化については、もう少し目立たせるべきというご指摘と受け止めました。台東区には文化があり、その成り立ちによって区の特徴があることは十分認識しています。これまで重点という形では整理してこなかったため、重点とするのがよいかどうかはすぐにはお答えできませんが、もう少し目立つ形になるよう、見せ方を考えていきたいと思っております。

2点目のKPI・KGIについて整理してよりわかりやすいものにするべきというご指摘についてでございます。資料6の38ページにある指標は、区民の意識など定性的な調査を主に用いていますので、定量的なものと組み合わせる必要があると考えています。観光客数はこれまで追いかけてきましたが、目標値にはしていません。一方、観光消費額や区内での滞在時間はずっと追いかけてきており、長期総合計画にも入っていますので、目標となる指標になると考えています。こうした点を書き加えることも含め、持ち帰って検討します。

3点目の宿泊税については、前回の実態調査のまとめでも世界の先進事例に少し触れています。第2章のどこに落とし込むかは、ページのボリューム等の都合もありますが、宿泊税についてはいろいろな動

きがあり、国では出国税が引き上げられるなど、国・都ともに観光にかける財源が増えてきています。それらを区としてどう活用できるかも含め、触れられればと考えています。

4 点目の都市型醸造所については、ご意見として伺います。

〇委員
引き続き検討いただければと思いますのでよろしくお願いします。

〇委員長
4 点目はご意見としてとのことでしたが、お酒を特出しする形でなくとも、様々な産業の中から、これから観光の魅力として売り出していけるものを打ち出していくということを書ける箇所がないか探してみると、基本方針 3 の「観光と関わりの少ない事業者への機会づくり」は、事業者を支援するような書き方になっていますが、これまで観光と関わりの少なかったものが、実は潜在的な魅力として沢山あるという見方もできます。区内の産業や事業の中から活用できるものを丁寧に発掘していく姿勢を書き込めるのではないかと思います。

指標については、ただいまの回答のとおり丁寧に検討いただくとして、KGI にするのか、中間的な測定値とするのかは、ご指摘のとおりきちんと体系化して捉える必要があります。区民の意識については既存の調査があり、サポーターアンケートや区民意識調査を活用すると書かれていますが、来訪者については、量は測られていても質はあまり測られていません。目標とする将来像には、来訪者が地域の暮らしと文化に敬意を払い、台東区ならではの魅力を求めるという姿が書かれていますが、これをどう測るのかという気がしています。消費額や滞在時間も大事な指標ですが、滞在時間が伸びても、台東区ならではではない、どこから持ってきたか分からないような商売に時間を使われるのでは残念です。暮らしや文化への理解が進み、敬意を持ってもらえるということも将来像に書かれていますので、何らかの形で書かれると良いと感じます。現状では指標がないため、目標指標として記載するのは難しいかもしれませんが、把握する事項の中で検討いただいてもよいと思います。大きなご指摘をいただきましたので、引き続き事務局でご検討ください。

皆様もお気づきの点があれば、どんな細かい点でも結構ですのでご発言ください。本日骨組みについてご意見をいただき、ブラッシュアップして完成させていきたいと思います。

〇委員
29 ページからの第 4 章、基本方針と取り組みが一番のポイントになると思います。事務局からは、具体例は区が既に実施している事業を束ねたものであり、今後検討していくとの説明がありました。確認ですが、4 年間のビジョンですので、未来志向のものになるはずです。予算編成などとの関係もあり具体的には書きにくい部分もあると思いますが、新たな取り組みはここに追加されていくという理解を確認したいです。

もう 1 点は、ビジョンのつくり自体に関わる提案です。第 1 章の策定の趣旨の 1 段落目に、このビジョンは区民、事業者、来訪者がともに意識して取り組むための方針であると書かれています。これまで区が作ってきた行政計画は基本的に区が主体で、区が何をやるかが重要でしたが、このビジョンは公民連携に近いものになってきています。その中で、区の取り組みだけを示すのがよいのかどうか。例えば今日は上野観光連盟の会長がいらしていますが、上野地区では上野観光連盟がこうしたテーマで民間主体の取り組みを幅広く行っていただいています。そうしたものを紹介するのも一つの方法だと思います。各団体で 4 年間に取り組むものがあれば、そのエッセンスを書いておいたほうがビジョンの趣旨に合うということを提案したいです。策定スケジュールとの関係もあり、どこまでできるか分かりませんが、ご検討いただければと思います。

〇事務局
新たな取り組みについては、事務局としても、現在の案はこれまでの事業を羅列したもので、4 年間を見据えると力強さに欠けると考えています。4 年間で実現しないかもしれないものも含め、庁内で検討していくといった新たな姿勢を加えることは、ご意見のとおりだと思います。単に現行の事業を並べる

のではなく、新たな視点でこうしたこともできると示せるよう、重点事業、新規事業、充実事業とどういう表現になるかはわかりませんが、工夫していきたいと思っています。

各団体の取り組みについても、商店街連合会には自らマナー啓発のキャンペーンを実施していただいています。ほかにも、奥浅草観光協会には冊子にマナー啓発の内容を掲載していただいたり、上野観光連盟にはイベントの際に東京都と連携していただいたりと、皆様の動きが出てきています。各団体が観光の課題に取り組んでいる内容も書き加え、まとめていきたいと思います。

〇委員
情報量が多く、水も漏らさぬ形でまとめられた、よく分かる資料だと思います。それでもいろいろな意見が出ています。先ほど 4 つの観点からご指摘がありましたが、その一つ目に、柱 3 にも重点を置くかどうかという話がありました。単なる意見ですが、確かにぱっと見ると、柱 1 と柱 2 には重点があるのに、柱 3 にはないことに疑問が浮かびます。重点とするのがよいかどうかは分かりませんが、見た目として、疑問に思う人はいると思います。柱 1・2・3 と掲げている以上、重みはある程度等しいのではないかという問いが出てくる可能性があるように思いました。

もう一つも一般論ですが、第 5 章で目標指標を掲げています。取れないものがあることは承知の上で申し上げますが、指標は、柱との相関関係が分からないといけないと思い、そこは明示したほうがよいと思います。その際、網羅されないものが出てくる可能性があり、それをどうするかについても気になりました。KPI・KGI を設けるかどうかについては、特に意見はありません。

〇事務局
柱の考え方については、文化の扱いをどうするか検討します。指標については、ご指摘のとおり基本方針と対になっていないとおかしいと考えます。現状では分かりづらいので、例えば観光客が増えることに好意的な区民の割合はどの基本方針に対応する、というように、区民の皆さんが見て分かる形で、どの指標がどの基本方針に当たるのかを分かりやすく整理します。

〇委員
今更ですが、出来上がったものはどうするのですか。区民に公表するのでしょうか。

〇事務局
今後の進め方としては、まずこの中間のまとめ案について、12 月中旬から 1 月上旬にかけて、区のほかの計画と一緒にパブリックコメントを実施し、区民の方からご意見を伺います。ビジョンができた後は、区民や事業者の方にもご覧いただけるよう、内容をかみ砕いて作っていきたいと考えています。

〇委員
実際、同じような文章がたくさんあります。基本方針 1・2 の中でもそうです。私はこれほど長い文章は読まないと思います。我々もいろいろな資料をいただきますが、ぱらぱらと見て引き出しにしまうか、ごみ箱に直行です。大変失礼な言い方ですが、役所の自己満足が入ってしまっていると思います。本当にポイントだけをかいつまんで、映像やイラストを入れるなど、もっと分かりやすくシンプルにしたほうがよいのではないでしょうか。同じような内容が違う文言で書かれていて、取り組み・概要・具体例・柱 1「生活環境との調和」・基本方針 1・2…と、同じようなことが書いてあるようにしか見えません。今更このようなことを言って申し訳ないですが、もう少しシンプルにできないかと感じています。

そのうえで、具体例のところをもっと膨らませてはどうでしょうか。例えば 31 ページの具体例には、ナイトエコノミーの推進や観光ルートの開発がありますが、こうした具体的なものをもっと膨らませていく。先ほど委員がおっしゃった酒蔵巡りも面白いと思います。なるほどと思うようなアイデアを入れたほうが、インパクトもあり、意味があると感じています。

また、本題とは別の具体的な話になりますが、上野・浅草には今本当に多くのインバウンドのお客様が来られています。移動手段は、人力車もありますが、銀座線を使うケースが一番多いと思われます。タクシーの方もいるかもしれません。我々の中でも検討しているのですが、以前あった上野・浅草間の 2

階建てバスを、またできないかと考えています。バス事業者にも話を持っていこうと思っていますが、上野・浅草の回遊性を高める具体的な方法について、何かお考えはありますか。

〇事務局
2 階建てバスが以前あったことは存じています。銀座線がほぼ 3 分に 1 本の間隔で走っていることもあり、採算面で厳しかったのではないかと思います。また、本物のロンドンバスを持ってきたものだったため、メンテナンスも相当大変だったと聞いています。課題はまだあると思いますが、そのバスがまだ残っていると聞いたことがありますので、まずはイベントの際にやってみるといった形が考えられるかと思います。観光らしい楽しいご提案ですので、このビジョンとは別途考えさせていただきます。

また、シンプルにというお話については、事務局としても分かりづらいことは重々承知しています。現在、日本交通公社とも調整しながら、区民の皆様に見ていただけるよう、なるべく分かりやすいものを作っていきたいと考えています。また、数ページの概要版も作成します。概要版は少なくともぱらぱらとめくれるものになりますので、分かりやすく、区や皆さんがこうしたことをやっていくのだと分かってもらえるよう努力していきたいと考えております。

〇委員
情報量が多く、1 時間ほどしか消化ができておらず申し訳ありません。先ほど、柱が 3 つあるのに柱 3 の基本方針 5・6 に重点がないというご指摘がありました。書いてあることはよく分かりました。観光推進において、受け入れとして集客をし、インバウンドに対応していくのもよいと思いますし、安全・安心・快適な暮らしと観光の調和を図るというのもよく分かります。一方、柱 2 の観光の効果を地域に波及させるという部分の、観光と関わりの少ない事業者への機会づくりというのが分かりづらかったので、詳しく説明していただきたいです。

もう 1 点は、観光を受け入れる側の話です。最近、地元の老舗の方とお話しする機会がありました。飲食店が増えすぎてしまい、浅草は儲かっていると言われがちだが、儲かっている業者はたかが知れているという実態があるそうです。また、このまちに来れば、インバウンドをターゲットにして儲かるのではないかという業者が増え、伝統的な街並みが失われつつある。ふたを開けてみたらチェーン店だらけになり、昔ながらのまちの景色も失われてきている。そうした中で観光で集客しようとしても、本当に良いお客さんが来るのだろうか、という話でした。

つまり、台東区で観光客をターゲットにする事業者に対しても、まち自体が観光資源である場所ですので、規制など何らかの対応をしてほしいということです。まちの形が崩れてきています。時代が過ぎれば、そういう時代もあったと言われ、定着して何十年後には当たり前になっているのかもしれませんが、台東区らしさ、上野らしさ、浅草らしさが失われてきてはいないでしょうか。

ネームバリューがあるので、観光客は山ほど来ます。今月は久々に晴れて、お客さんがたくさん来てくれていますが、バスツアーで来る外国のお客さんはほとんどお金を落としません。そうした人たちが来ることで、また来たいと思ってくれる日本人のお客さんの機会損失につながったりもします。誰でも来てくれるまちだからこそ、その人たちに見返りを求めるのは区としては間違っているのかもしれませんが、インバウンドをターゲットにして新しく出てくる店と、お金を使わない観光客について調整ができれば、台東区に来るお客さんはもっと良くなり、まちのことを思って事業をしている方々の生活も向上すると思います。そのあたりはどこに反映されているのか教えていただきたいです。

〇事務局
1 点目の、観光の効果を波及させ、地域に行き渡らせる点についてです。中間のまとめ案では 32 ページの基本方針 3 で、波及させるためにまず観光と関わりの少ない事業者への機会づくりを掲げています。具体例にある観光×産業 EXPO では、区内の事業者に広く声をかけ、これまで観光客とあまり関わってこなかった事業者にも集まっていただきました。今回は食の事業者向けのセミナーなども行い、ほかの販売事業者などともつながっていただくなど、日頃つながりのない事業者同士をつなげ、観光客と直接接しない事業者にも裾野を広げることで、観光客に直接お金を落としてもらうということではなくとも、波及効果が事業者に広く行き渡るようにしたいという趣旨で書いているところです。

2 点目については、事務局としても量を求めているわけではありません。質と言うと失礼ですが、文化を理解している方や消費をしてくださる方を取り込んでいきたいと考えています。例えば 33 ページの基本方針 4、本物に出会える機会の充実のところで、分かりづらいのですが、文化資源の高付加価値化事業を行っています。これは老舗を BtoB でも BtoC でも紹介して盛り上げていこうという取り組みです。また、台東区には教育旅行が多く来ていますので、将来にわたって上野・浅草をはじめ区内のいろいろな場所のファンを増やしていけるよう、区内を回っていただく教育旅行のコンテンツを引き続き作っていきたいと考えています。さらに、35 ページの基本方針 5 では地域文化の担い手の育成を掲げています。このように、地域文化を大切に思っていますので、新しいことにも取り組みつつ、老舗や昔から続く事業者、昔から続く行事などを中心に据えていきたいと考えています。そこは台東区の強みです。おっしゃっていることはよく分かりますし、分かりづらいところもありますが、事務局も同じ思いでいるとご理解いただければと思います。

〇委員
例えば基本方針 3 にある観光×産業 EXPO の実施は、観光客が来られるようなものですか。

〇事務局
観光×産業 EXPO は、現在は BtoB で実施しています。会場の関係などもあり、今のところ BtoC までは行っていません。区内には、目の前を観光客が通っているのに、なかなかアプローチできていない事業者がいます。そうした事業者に集まっていただき、勉強したり、事業者同士で話し合ったり、ホテルとつながりを持っていただいたりする事業です。これにより、これまで BtoB で事業をしていた事業者が、BtoC や外国人向けの商売にも取り組んでみようという例も多く出てきていますので、そうした取り組みを進めています。

〇委員
地域の中の連携を促進するための事業ということですね。

〇事務局
おっしゃるとおりです。それによって様々なところに効果を波及させていければと考えています。

〇委員
分かりました。資料を見たとき、観光客が見に行って実際に商品を買うような場なのかとイメージしていました。そうであれば、例えば台東区で国際会議を誘致して、良いお客さんを呼び込み、良い商品を知ってもらい、良いものを高く買ってもらえる人たちをたくさん呼ぶような機会づくりをしたほうがよいのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

〇事務局
MICE については、台東区には大きな会場がないという事情があります。ただ、小規模なものは、実はいろいろなところから来ています。来週もインドネシアのジャカルタの副知事らが 20 人ほどで勉強に来られる予定ですし、本日も浅草のことを知りたいという視察がありました。そうした機会をしっかり捉えて、区内に泊まっていただいたり、区の良いところを理解していただいたりする取り組みがあります。大規模な MICE は厳しいのですが、中規模のものについては、ホテルと連携しながら PR していきたいと考えています。

〇委員
質の良いお客さんについて、手前味噌ですが、私どもでも旅マエの動画を作成する事業を始めようとしています。海外に向けて、こちらから先手を打ってマナーを伝えつつ、各お店の紹介もできればと考えているチームがあります。行政の皆さんと相談しながらそうした取り組みをできればと思いました。

〇委員
多くの情報をよくまとめていただいたと思います。2 点あります。

1 点目は、先ほどの委員のご意見と重なりますが、このビジョンは区がどうするかではなく、区民、事業者、来訪者が意識して取り組むための方針となっていますので、せっかく作るのであれば、広く区民や事業者の方々に分かりやすく PR する必要があると思います。手法として、あくまで一案ですが、私

も関わらせていただいた区産業振興ビジョン「COMPASS」では、通常の行政計画は、冒頭部分に趣旨と計画期間があり、その後に現状の調査が数多く掲載されていて、最初のほうを見ているだけで眠くなってしまうところですが、何をやりたいのか、本書でいえば 25 ページ以降の内容を一番最初に持ってくる構成にしました。台東区はこういうことをやりたいのだとまず示し、調査や事実関係を着実に積み上げている部分は後ろに持っていくというのも一つの案かと思います。見せ方を少し工夫していただけると良いと思います。また、非常に着実に真面目に取りまとめられていますが、もう少し尖った中身や写真を入れ、せっかくですので多くの人の目に触れるものにしていただければと思います。

また、先ほど委員からもありましたが、ある種の切迫感も必要だと思います。柱 1 の調和の分野を重点課題として挙げていただいており、私も優先順位の高い課題だと思っていますので、その点は共感します。ただ、現状の部分で、例えば民泊事業者が増えているという統計調査が書かれていますが、それを受けて区がどう考えているのか、難しいテーマではありますが、事実を統計で示すだけでなく、区としてのコメントが少し入ると良いと思いました。

2 点目は、それに関連したお知らせも含めたコメントとなります。民泊については、利用者を巡るごみや騒音などの課題が発生しており、東京都では 7 月からワンストップの相談コールセンターを設けています。様々な相談が寄せられている状況も踏まえ、明日（10 月 23 日）から「民泊の適正運営強化月間」として、全ての区市町村及び警視庁と一緒に、民泊事業者や利用者に対して、地域への配慮や法令遵守を呼びかける PR を行います。PR だけでは実効性が乏しいため、一部の地域では、台東区にもご協力いただけると聞いていますが、実際に現場を巡回し、宿泊者や事業者にマナーを呼びかける指導も行っていこうと考えております。こうした民泊の課題についても、ビジョンの中にもう少し入れていただくのも良いのではないかと思います。

〇事務局
COMPASS のように、やりたいことを最初に持ってくる構成は斬新だと思います。どこまでできるかですが、本編はこれから構成を入れ替えるのは難しいため、例えば概要版では先に持ってくるなど、目立つ形で分かっていただける方法を検討します。

民泊については、事務局としても重要課題と認識しています。東京都との連携については、保健所の担当課にすぐ連絡があり、観光課も協力してほしいと連絡を受けています。観光課としてもチラシを全ての民泊に配布しましたが、どこまで行き渡っているかは分からず、現場もよく分からないところがありますので、観光課からも民泊にアプローチしています。一緒になって引き続き頑張っていきたいと思います。

〇委員
前回は出席できなかったのですが、資料を見て、エレベーターやエスカレーターの設置のような具体的な話がどうなっているのか。また、ごみ処理の問題も前回出ていたと思いますが、今回もそうしたことが一切書かれていません。これは別の問題なのでしょうか。

〇委員長
資料 2 には今のご指摘が書かれていたと思いますが、いかがでしょうか。

〇委員
先ほども思ったのですが、資料 2 では反映、一部反映と書かれていますが、全く反映されていないものを取り上げていただいたほうがよかったのではないでしょうか。実際、その点については何も書かれていないです。住民にとっても、来訪者にとっても必要で、大事なことだと思います。

〇事務局
バリアフリーのエレベーター等の具体的な点が、どこに反映されているのかというご質問ですが、確かに表現をかなり丸めてしまっているところがあります。資料 2 では、エレベーターなどのハード的な部分は 20 番のバリアフリーとして一括していますが、中身を見るとトイレのことが書かれているなど、具体的に落とし込めていない部分もあります。議事録でいただいた内容も踏まえ、また駅など事業者に

お願いし連携する部分もありますので、書ける範囲をもう一度整理し、表現については検討していきたいと考えております。

ごみ処理の問題について、このごみというのは事業所のごみのことでしょうか。

〇委員
いいえ、違います。観光客が落としていくごみです。前回の話にも出ていたと思います。クリーンアップムーブメントの中で触れられてはいますが、ごみ箱の設置などについて本体には全く載っていないので、どう考えているのでしょうか。

〇事務局
ただいまの件についても、クリーンアップムーブメントの活動の中で、観光客にマナーを啓発しながらリーフレットを配布するといった取り組みを行っています。ごみについては、観光客にはお持ち帰りくださいと呼びかけ、事業者にはマナーを守っていただくといった別の取り組みもあります。先ほどお話ししたように、こうした活動を具体的にご理解いただけるよう、別立てで書いていきたいと考えています。内容をかなり丸めた結果、分かりづらくなっていると認識していますので、今のご意見についても、具体的に分かるように書いていければと思います。

〇委員長
ごみの話は資料 2 にもたびたび出てきており、大きな課題であることは皆さん認識されていると思います。具体例については、私も事前に拝見しましたが、現在行われている細かな事業の話と、抽象度の高い施策の話とが混在しています。また、ご指摘のとおり、未来に向かって何をするのかが見えにくいところがあります。行政計画の常として、本当にできるのかということは書きにくいところがあると思いますが、区だけが頑張って対応できることばかりではありません。本日、団体や事業者の側でもいろいろな取り組みをされているとご提案いただきましたので、区民、事業者、区、その他の団体が連携しながら課題に向かって取り組んでいくという姿勢を書き込むことも、方針、ビジョンとして大事だと思います。区が行っている小さな事業名だけを並べると、どうしても、この点はどうなっているのかという印象を受けてしまいます。書きぶりとして、現在はこうしたことを行っているが、この 4 年間ではさらに取り組みを加速させ、他の皆様と協力しながら進める、という宣言のようなものが書けると良いと思います。

また、ご指摘のとおり、資料 2 で反映したとしているものが十分かどうかという点も若干ありますので、せっかく丁寧にまとめていただいた資料ですから、反映したという形でよいか、今一度点検いただければと思います。

まだご発言いただいていない方もいらっしゃいますが、いかがでしょうか。お時間も迫っておりますので、最後に一言あればお願いします。

〇委員
意見というより相談に近いのですが、観光誘致のプロモーションについてです。現在は区役所ということもあり、ターゲットを決めずに全方位的に PR しているのが現状です。もう一つの案として、ターゲットを決めて、例えばどこの国などについて誘致することを、試行でもよいのでやってみようかと思っています。ただ、そうすると、選ばれなかった国、あるいは選んだ国についてどうなのかということにつながるのではないかという懸念もあります。一方で、先ほど委員がおっしゃっていた量より質という面を追求していくと、来ていただきたい国のお客様に来ていただくのがお互いにとって幸せだということに行き着きます。ターゲットを絞ったプロモーションをまず第一手とし、もちろん全方位的なものを否定するわけではありません。区としてそうした取り組みを行う場合、リスクが高い、あるいは試行としてやるべきなど、率直なご意見をお聞かせいただければありがたいと思います。

〇委員
まさに先週、タイのバンコクでタイ人向けの訪日旅行博があり、上野観光連盟として出展しました。台東区からも来ていただき、一緒に我々の店や台東区のチラシを配布して、台東区・上野のアピールをし

てきたところ、非常に支持を受けています。こうしたイベントは各地であるようですので、どんどん出ていくべきだと思います。

その時に思ったことですが、このイベントは以前から開催されているもので、上野観光連盟は 3 年前から出展しています。向かいには東京観光財団のブースがあり、東京をアピールするものとして雷門の写真が大きく掲げられていました。上野には雷門のような象徴的なランドマークがないので、何とかしたいと考えているところです。浅草はさすが東京の顔だと思い、負けたと感じました。こうしたイベントは各地で行われていますので、どんどん出ていったほうがよい。特定の国からの観光客が減り、今後も国際情勢に左右されるのであれば、それ以外にも親日の国はたくさんありますので、そうしたところにどんどん出向いていくのも良いのではないかと、実際に肌で感じてきたところです。

〇委員
どこかに量から質という話が入っていたと思いますので、そうするとおのずと絞ることになると思います。試行的でもよいので、絞った取り組みをしていったほうがよいのではないかと思います。地域として見れば誰でも来てしまうので、それはそれとして置いておき、自分たちが来てほしい人たちへのアプローチを強めていくことが、ビジョンの達成に近づくのだと思います。また、ここに書かれている伝統を守る、地域の良さを生かすという話になると、おのずとそれも選別すべき話になってきますので、それに則ってマーケティングも進めていかれるのが良いと思います。

〇委員長
ターゲットを設定することは、むしろビジョンに織り込まれているものだと思っていましたので、私も大いに賛成です。しかし一点、国という単位ではないのではないかと思います。今ご指摘があったとおり、実現したい観光で来てほしい来訪者はこういう人たちだと明確に書いているので、それをターゲットにするということだと思います。ただ、その人たちがどこにいて、どうしたらその人たちにリーチするのかという戦略は考える必要があります。

先ほどいくつか良いヒントがあったと思います。教育旅行・修学旅行を大事にしたいという話があり、それはどこに書かれるのだろうかと内心思いながら聞いていました。もう一点は MICE に関連して、大規模な展示会やイベントといったものは難しいものの、ビジネストリップである小規模なミーティングや商談を、台東区の上野・浅草のように既に受け皿があるところで行ってもらい、アフターミーティングを夜に楽しんでもらうというのは、どの都市でもおそらく戦略として持っている話です。MICE の中でも小規模なものを選んで細かく営業をかけていくというのは、先ほどのお話にあったチェーン店のような、どこにでもあるものを売っている店ばかりのまちではできないことです。台東区が持っている文化資源や伝統を、アフターミーティングのレクリエーションに活用するという戦略はいくらでも作れそうですので、重要なターゲットだと思います。そうした書きぶりで、例えば教育旅行・修学旅行やビジネストリップの重点的な誘致を図るということが、今おっしゃっているターゲットを絞るということになるかと思います。放っておいても来るお客さんは来られてしまいますし、来るなとは言えません。その中で、特に来てほしいお客さんに重点的にアプローチしていくという戦略は、明確に書いて良いと思います。

最後に一点だけ、チェーン店や、儲かるからと出てきた店の話がありましたが、店舗が出てくるのは、貸主や売主がいるという、それだけの環境があるということだと思います。不動産屋経由でどんどん売ってしまうというマインドが区民の中に本当にあるのか。そう思っている方もいるかもしれませんが、そうではなく、区として目標としているまちづくりや、まちをどのように観光に使ってほしいかを、区民の皆様に広く知っていただいたほうが良いと思います。これまでもご指摘がありましたが、区民が読める、読みやすく伝わる概要版を、紙だけでなく、最近よく使われている動画なども含めて、伝えていく努力が必要だと思います。

何か言い漏らしたことなどはございませんか。よろしいでしょうか。では、本日の議事はここまでとします。活発なご意見をありがとうございました。

5　事務局からの連絡事項

〇事務局
本日いただいたご意見を踏まえて中間のまとめ案を修正し、委員長と調整したうえで、委員の皆様にもご確認いただく予定です。修正の内容については、事務局にご一任いただければと思います。

―今後の流れについて説明―